

桂川・相模川

流域マップ

桂川・相模川流域協議会

ホームページアドレス <http://katurasagami.net/>
事務局 山梨県富士・東部林務環境事務所 環境・エネルギー課
〒402-0054 山梨県都留市田原2-13-43
TEL 0554-45-7811 FAX 0554-45-7807
神奈川県環境農政局 緑政部 水源環境保全課
〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通 1
TEL 045-210-4352 FAX 045-210-8855

この図は、石川県金沢市付近の上空280kmから南東方向を俯瞰したものです。写真のように見えるかもしれませんが、地球観測衛星「Terra/ASTER」が観測した画像をコンピュータを使って立体化したコンピュータ・グラフィックス（CG）です。この図を作成した神奈川県立生命の星・地球博物館では、宇宙から見たデータから作った鳥瞰図ということで、「宙瞰図」と呼んでいます。

富士山のふもと・山中湖や忍野八海から流れ出た水は、丹沢山地と関東山地の間を流れ相模湾に注いでいます。この間、流域に接する市町村は19を数え、直接川に接していなくても水道水として相模川の水を使っている市町村も多くあります。この100kmを越える桂川・相模川の流域全体が一望できるようにと考え、この宙瞰図「桂川・相模川流域図」を作りました。

鳥瞰位置：北緯36度35分 東経136度25分 高度280km
方位角：116.8度 伏角：51.8度 画角：7度
衛星データ：地球観測衛星「Terra/ASTER VNIR」2002年3月観測
標高データ：数値地図(標高)50mメッシュ
国土地理院使用承認 平成23情使第823号
作図ソフト：カシミール3D (<http://www.kashmir3d.com/>)
作成者：新井田秀一



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

流域関係市町村

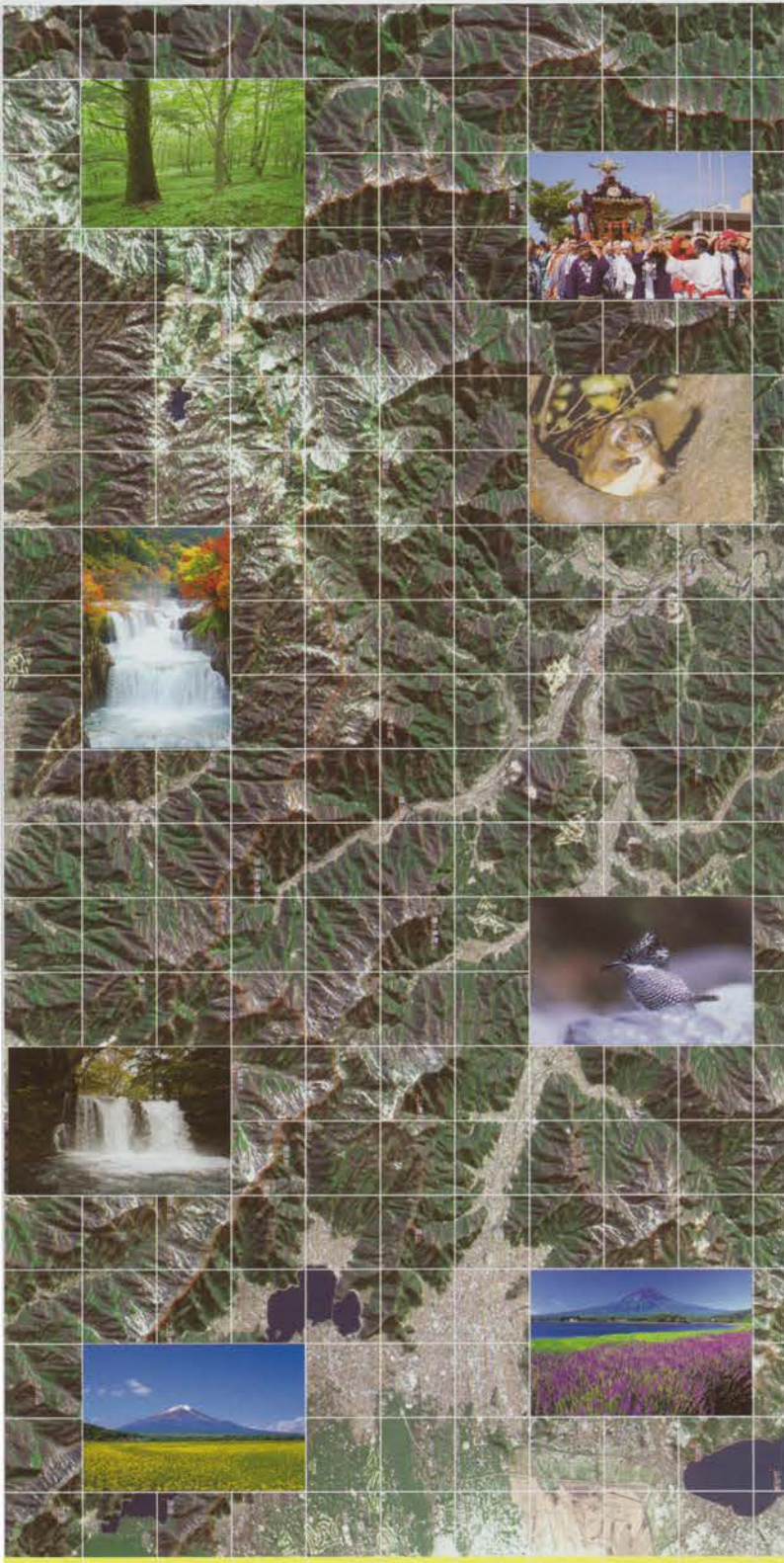
山梨県：山中湖村、忍野村、富士吉田市、富士河口湖町、西桂町、都留市、大月市、上野原市、道志村、小菅村
神奈川県：相模原市、清川村、愛川町、座間市、厚木市、海老名市、寒川町、平塚市、茅ヶ崎市

流域境界地図



桂川・相模川

流域マップ



桂川・相模川流域協議会 桂川・相模川流域協議会
ホームページアドレス <http://katurasagami.net/>
事務局 山梨県富士・東部林務環境事務所 環境・エネルギー課
〒402-0054 山梨県都留市田原2-13-43
TEL 0554-45-7811 FAX 0554-45-7807
神奈川県環境農政局 緑政部 水環境保全課
〒231-0580 神奈川県横浜市中区日本大通1
TEL 045-210-4352 FAX 045-210-8855

流域の説明

桂川・相模川は富士山の伏流水から成る富士五湖の最高地、山中湖を水源として、山梨県、神奈川県を流れ、途中、相模湖、津久井湖のダム湖を配し、相模湾に注ぐ全長113キロの1級河川です。山梨県内では桂川、神奈川県内では相模川と呼ばれています。また、河口では馬入川とも呼ばれています。

桂川・相模川は私たちの暮らしを支える水として、水道・農業・発電等様々な使われてきました。流域外の大都市、横浜市、川崎市や横浜市の水源としても重要な役割を果たしています。

桂川・相模川の水質の状況を見ると、中下流域の市街地を流れる支川や、上流域の人家等が集中している場所を流れる支川では汚濁が見られたものの、下水道や合併処理浄化槽の普及等により、平成20年度以降、汚濁の度合いを表す指標（BOD）における環境基準は概ね達成されています。このように、人間の暮らしが河川水質の汚濁に少なからず影響を与えていると考えられます。

また、近年では、未規制の化学物質による影響などにも注視していく必要があります。



アジェンダ21桂川・相模川



「アジェンダ21桂川・相模川」は、桂川・相模川流域を対象に市民、事業者、行政の話し合いの中から、桂川・相模川流域協議会が策定した『ローカルアジェンダ』です。

「アジェンダ21桂川・相模川」は、この流域において、環境への負荷が少ない持続可能な発展を基調にした環境保全型社会を築くための行動計画です。また、市民、事業者、行政のそれぞれが役割を果たし、相互に協力しながら、流域の環境を保全するという一つの目標に向かって努力していく指針となるものです。



流域協議会では、このアジェンダに基づき、市民、事業者、行政の具体的な行動について、現在も引き続き協議しています。流域にかかわるすべての人が、お互いの立場を尊重し、協力・連携して継続的に取り組み、子孫に誇れるような桂川・相模川流域づくりを進めていきます。

協議会の概要

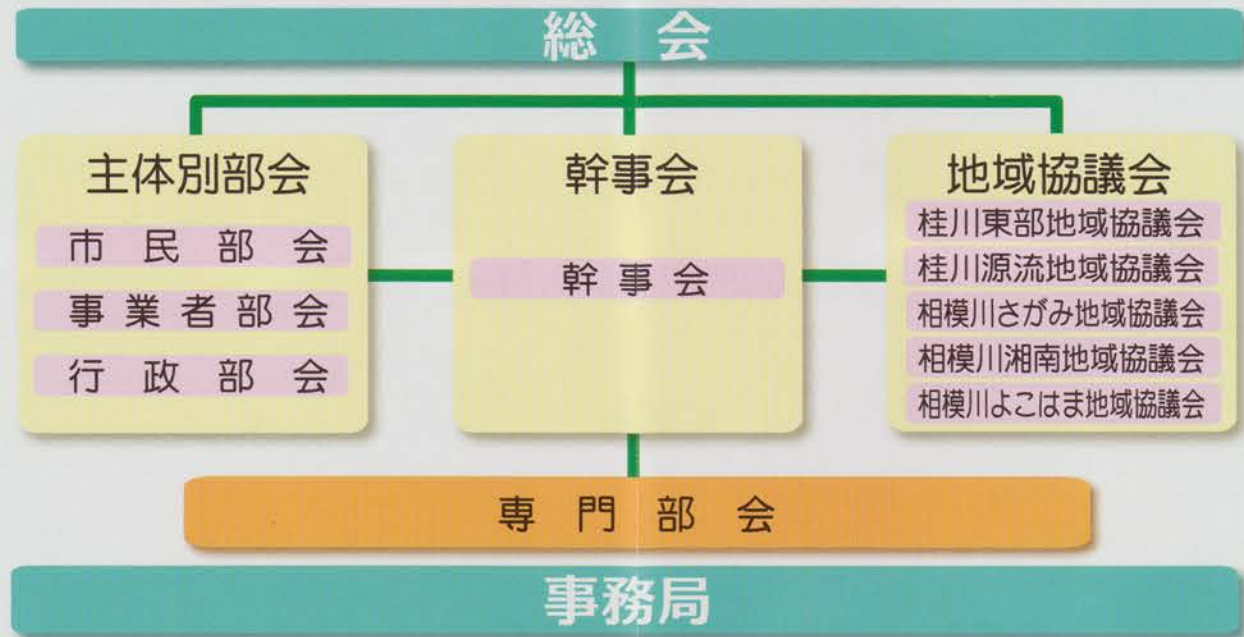
桂川・相模川流域協議会は、桂川・相模川の恵み豊かな流域環境を将来の世代まで引き継いでいくことを目的として、流域に関わる市民、事業者、行政が、流域環境の保全について合意形成をはかり、長期的な活動を進めていくための機関として、1998年1月に設立されました。

流域協議会の構成は、市民、事業者、行政からなっており、このような3者からなる組織は、当時としては全国的に珍しい画期的な構成です。

流域協議会では、1998年に策定した「アジェンダ21桂川・相模川」に基づき、市民、事業者、行政の協働により、流域シンポジウムや上下流交流事業の実施、クリーンキャンペーンへの支援など、流域の環境保全に取り組んでいます。

協議会URL：<http://katurasagami.net/>

組織図



地域協議会について

桂川・相模川の流域は広く、それぞれ地域性も異なることから、より地域にあった活動ができるよう、各地域に地域協議会を設置し、きめ細やかな事業を行っています。



活動内容

～こんな活動をしています～

○流域シンポジウム

桂川・相模川の水源環境の保全・再生についてみんなで考え、本音で語り合う場として、流域シンポジウムを年1回開催しています。



○環境調査事業

身近な水環境全国一斉調査への参加、アユ産卵動画撮影、石倉カゴによるウナギ生息調査、地下水・湧水調査、梅花藻調査などを行っています。



これまでもアジェンダ21桂川・相模川を推進するため、様々な環境調査事業が行われており、アメリカザリガニ、田んぼの生きもの、シジミ類、シナダレスズメガヤ生息場所といった外来生物調査も行ってきました。これらの活動については、協議会ホームページに掲載しております。



流域協議会は、関係する主体の合意形成の場です。開かれた議論をしていくため、趣旨に賛同する方（団体）は、どなたでも会員になれます。会員は、活動経費として会費を納めていただきます。

<年会費>
市民：一口 1,000円
(市民団体二口以上)
事業者：一口 9,000円
一口以上
行政：別に定める負担金
賛助会員：一口 3,000円
流域協議会の活動を活発にし、実り多いものにしていくため、多くの参加と協力をお待ちしています。

神奈川
KANAGAWA



愛川町の中央部を流れる清流で、丹沢山系に源を発しています。かつては、伐採した木材を流して運んだり、燃焼の動力となる水車を回したり、生活に密接に関わっていました。現在では、アユ釣りや川遊びの拠点として、親しまれています。



相模川付近にあるひまわり畑では、毎年8月にひまわりまつりが開催されています。首都圏随一の55万本のひまわりが咲き誇り、「かながわの花の名所100選」にも選ばれています。



寒川神社は、寒川町のほぼ中心に位置し、相模川の左岸の低台地上に鎮座します。846年には公の記録が残されている由緒ある神社であり、年間約200万人の参拝者が寒川神社に訪れます。



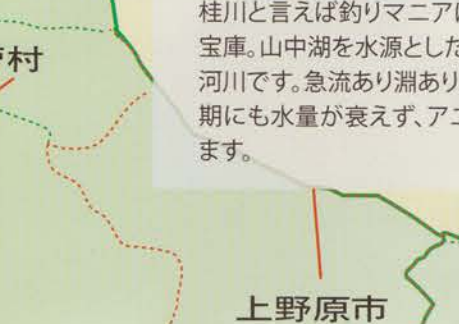
相模川下流域一帯は、湘南潮来ともいわれる広々とした水郷地帯です。マリンスポーツや川釣りなどを楽しむ人々でにぎわいます。夏には花火大会、秋にはハゼ釣り大会も盛大に行われ、多くの家族連れが訪れます。



あつぎまつりは、毎年8月の第一土曜日から2日間、市街地周辺及び相模川三川合流点などを会場として、開催しています。「かながわのまつり50選」の一つに数えられ、毎年多くの観光客でにぎわっています。



桂川と言えば釣りマニアには、誰でも知るアユの宝庫。山中湖を水源とした相模川水系のうち最大の河川です。急流あり淵あり、アユの魚場に選んで湧水にも水量が衰えず、アユ釣りのメッカになっています。



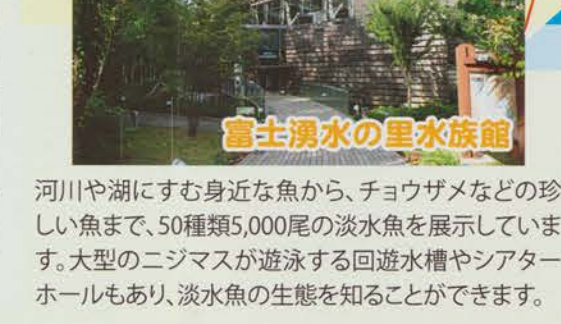
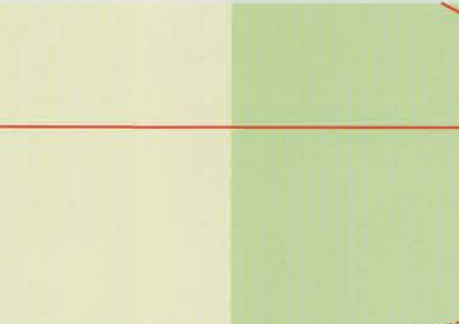
国道413号線と道志川沿いに建つ「道の駅どうし」は、道志村の情報発信拠点。観光、イベント、特産品など村の様々な情報を手軽に得ることができます。特産品直売所では、クレンソウをはじめ地元農家の朝採り野菜や山菜、漬け物、木工品などの品々が勢揃いしています。駅の横にある「とうふ屋ほたる」はもめん、絹、クレンソウの3種類の豆腐が販売されて好評を得ています。また、道志川で遊ぶことができ、暖かくなると家族連れなどが自然の中で水あそびを楽しんでいます。



小菅村は相模川と多摩川の2つの源流を持つ村です。村の南東を流れる鶴川はお隣の上野原市で桂川にそそぎます。鶴川を流れる長作地区には、重要文化財である長作観音堂や巨木に囲まれた御鷹神社が建立されています。村にはお肌がつるつるになる高アルカリ温泉の小菅の湯もありますので、源流の自然を体験しに来てください。



市川の紅葉の名所となっています。重宝の「甲陽橋の図」や十返舎一九の「諸国道中金の草鞋」などにも見ることができる猿橋は、「岩国の錦帯橋」「大首の棧（かけはし）」と並ぶ「甲斐の猿橋」日本三奇橋のひとつ。長さ31m、幅3.3mのさして大きくない木橋、谷が深く、橋脚がたてられないため、橋脚を使わずに両岸から張り出した4層のはね木によって橋を支える珍しい構造の橋です。



富士山に一番近い湖のほとり、標高1,000mの高原にある花の都公園。30万平方メートルの敷地を四季折々の花で埋め尽くし鮮やかな色彩と豊かな自然が湖畔の休日をドラマチックに演出します。



富士山の眺望で有名な「殷のそき」です。ちょうど目線の高さが幹が二股に分かれた赤松の木があり、その間から富士山が見えることがこのユニークな名称の由来だといえます。



雪峰富士の北麓に位置する富士河口湖町は、緑豊かな自然と山々に恵まれ、青木ヶ原樹海に代表される森林と原野で覆われ、その間に火山噴出物で堰き止められた4つの湖、河口湖、西湖、精進湖、本栖湖があり、富士山の裾野には開けた青木ヶ原・富士ヶ原高原など広漠とした日本屈指の景勝地を形成しています。写真は河口湖北岸に広がる大石公園から見た富士山と河口湖とラベンダーで毎年6月下旬から7月中旬には八木崎公園とともに河口湖ハーフフェスティバルが開催され多くの人でにぎわいます。



山中湖を水源とし、市の東部を流れる桂川の上流部に位置します。水量は豊かで、滝の中央部に突起した溶岩が水流を二分し、二条の滝をつくっています。落差10mで下流の溶岩に激突し、飛沫を散らして激流となっていく光景は迫力満点です。



ヤマセミ ©中川雄三

桂川
KATURA River



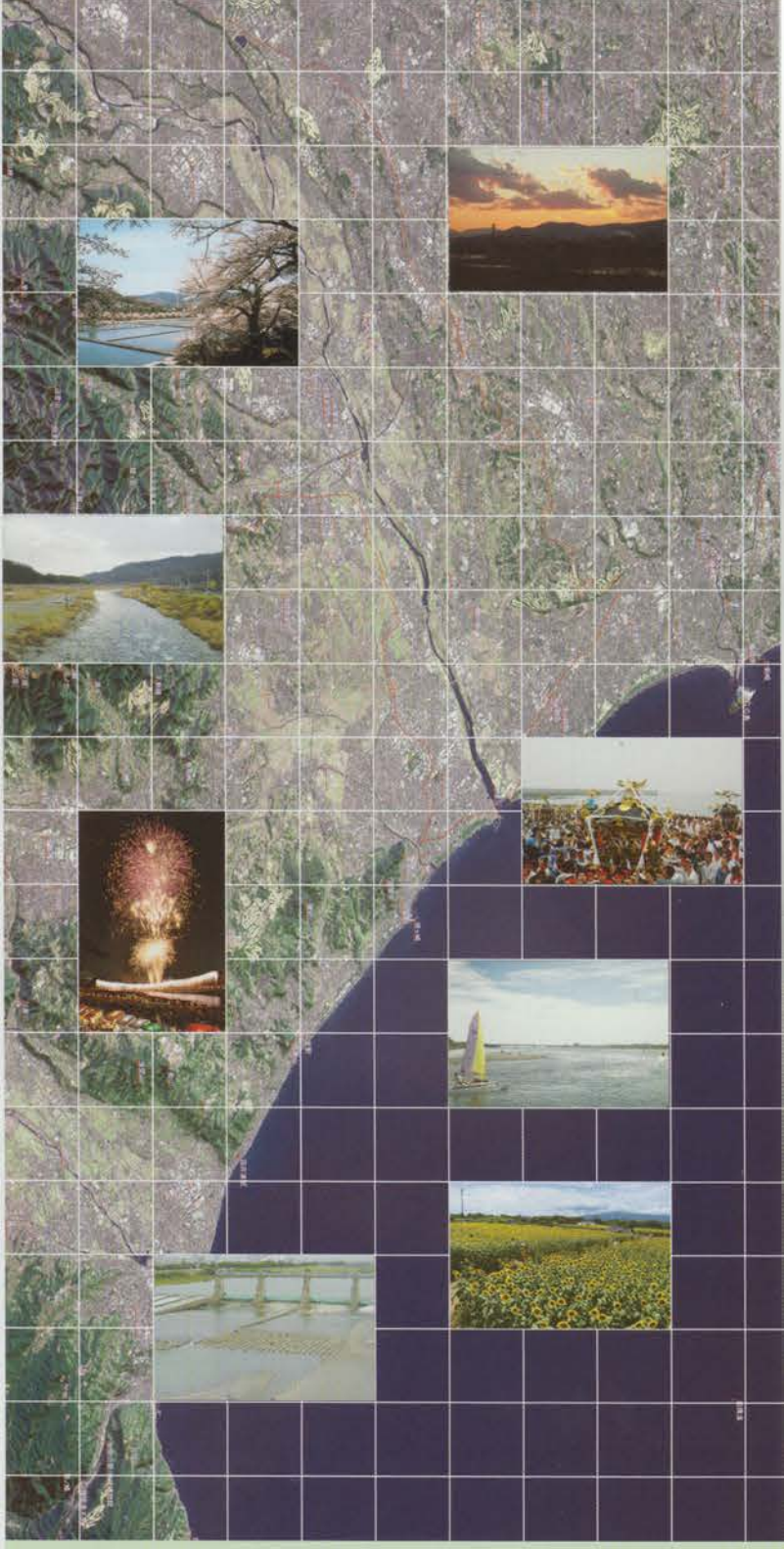
ムササビ ©中川雄三



シオジの森 シオジの大きな木が群生する天然林で、椎樹、林床植物を保護しています。森と水の進歩的な美しさとふれあうことが出来ます。

桂川・相模川

流域マップ



**Katura River
Sagami River
Watershed Map**
桂川・相模川
流域協議会
印刷・販売しがら印刷
2024年3月発行



カワラノギク 多摩川、鬼怒川と相模川でしか見られない絶滅危惧種

相模川
SAGAMI River



寒川堰を遡るアユ



早戸大滝

早戸大滝は、神奈川県唯一「日本百名山」に名を連ねる丹沢山の真北、真下にある落差50mの滝です。滝の中央付近に大岩を抱えて全景が見え、幻の大滝とも言われます。滝へは、早戸川林道奥から更に2時間ほど沢道を歩かなければ辿り着けない秘境にあります。桂川・相模川流域で「日本の滝百選」にリストアップされている滝はここだけです。